

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻  
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M971401
氏名	諸星 成美
学位	修士（作業療法学）
指導教員	京極 真
副指導教員	狩長 弘親・山本 倫子
論文題目	回復期リハビリテーション病棟における作業的挑戦に関する尺度開発
要旨 (200字以内)	本研究の目的は、回復期リハビリテーション病棟における作業的挑戦尺度（OCA）を開発することであった。尺度開発の国際基準を参考に、構成概念の整備、項目プールの作成を行い、多変量解析で尺度構成し、妥当性と信頼性を明らかにした。結果、個人的挑戦と環境的挑戦の2因子13項目で構成されるOCAが完成した。それにより、チーム医療の質が向上し、クライアントを作業適応に導くことが可能になると考える。

学籍番号	M971402
氏名	大岸 太一
学位	修士（作業療法学）
指導教員	京極 真
副指導教員	狩長 弘親・香田 康年
論文題目	透析医療に携わる医療従事者の職業性ストレス、コーピング、信念対立、作業機能障害の構造的関連性に関する研究
要旨 (200字以内)	本研究の目的は、透析医療従事者の職業性ストレスに関する要因と対策を検証することである。分析には、構造方程式モデリングの多重指標モデルを用い、職業性ストレス、コーピング、信念対立、作業機能障害の構造的関連性を調査した。結果、信念対立が作業機能障害を悪化させ、作業機能障害は職業性ストレスを悪化させるというモデルが採用された。職業性ストレス対策は、信念対立の低減からはじめる必要があると考えられた。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻  
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M971403
氏名	小池 康弘
学位	修士（作業療法学）
指導教員	中角 祐治
副指導教員	松田 勇・香田 康年
論文題目	回復期リハビリテーションにおける患者の機能訓練への動機づけに関する尺度の開発
要旨 (200 字以内)	本研究の目的は、回復期リハビリテーションにおける機能訓練への動機づけを測定する尺度を開発することであった。構成概念の整備、内容的妥当性の検討、表面的妥当性の検討の結果、42 項目の仮尺度が作成された。仮尺度の項目分析、因子妥当性の検討、仮説検証、多母集団同時解析の結果、自律的動機づけ、他律的動機づけ、非動機づけの 3 因子 13 項目の本尺度が作成され、信頼性と妥当性が確認された。

学籍番号	M971404
氏名	最相 伸彦
学位	修士（作業療法学）
指導教員	藪脇 健司
副指導教員	岩田 美幸・狩長 弘親
論文題目	要介護高齢者と家族介護者の作業参加の相互関係性および健康関連 QOL と介護負担感に及ぼす影響
要旨 (200 字以内)	本研究は、要介護高齢者および家族介護者の作業参加の特徴を把握し、健康関連 QOL や介護負担感への影響を明らかにするため、マルチレベル構造方程式モデリングと行為者-パートナー相互依存性モデリングによる分析を行った。両者の作業参加と健康関連 QOL の関係には家族の集団特性が強く影響すること、さらに、要介護高齢者と家族介護者の作業参加は健康関連 QOL へ相互に影響することが明らかとなった。

吉備国際大学大学院（通信制）保健科学研究科作業療法学専攻  
平成 27 年度修士学位論文

学籍番号	M971407
氏 名	中原 啓太
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	藪脇 健司
副指導教員	岩田 美幸・狩長 弘親
論文題目	健常高齢者の作業参加，環境要因，運動量が健康関連 QOL に及ぼす影響
要旨 (200 字以内)	健常高齢者に対して，質問紙と活動量計を使用し，健康関連 QOL，作業参加，環境要因，運動量に関する横断的な調査研究を行った．分析には，構造方程式モデリングを実施した．結果として，運動量が健康関連 QOL に及ぼす影響と比較して，環境要因を介した作業参加の方が大きく影響していた．健常高齢者の環境要因を調整し，作業参加を促進することは，運動量の向上を中心とした介入に比べ，十分な影響力をもつことが示唆される．

学籍番号	M971408
氏 名	東野 幸夫
学 位	修士（作業療法学）
指導教員	岩田 美幸
副指導教員	香田 康年・藪脇 健司
論文題目	作業療法学を学ぶ学生が中途退学や休学的意思を凌いで就学継続できた過程の解明
要旨 (200 字以内)	本研究は，中途退学を訴えながらも就学継続できた過程を視覚化すること．また，就学継続につながる支援活動を提示することを目的とした．対象者 8 名に半構造化面接の実施後，複線径路等至性アプローチを用いて分析した．結果，就学継続は，【将来への見通し】を立てる，【凌ぐ精神】の 2 通りの過程が解明できた．また，学生は，教員と繰り返しの関わりを経験し，就学する価値を見出す必要性が判明し，教員の支援方法が示唆された．